



JAPAN HERITAGE

日本遺産

謹賀新年

新年おめでとうございます
旧年中は何かとお世話になり
ありがとうございました。

「稲むらの火の館」は昨年
もまたいろいろの事を経験さ
せていただきました。

特に、ここにシンボルマークを載せさせていただいていますが、広川町の『「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～』が日本遺産に認定されました。これまで67件が認定されていますが、防災遺産としては初めてです。最近は、全国で各種の大災害が起こっています。そうした中で、防災遺産として認定されたことは全国的にも意義深い事だと思います。

次に、『「世界津波の日」2018高校生サミット』が和歌山県で開催されました。海外の47ヶ国から高校生が244人と引率者49人が来られました。10月28日の「稲むらの火祭り」へ全員が参加され、勇壮な松明行列を体験されました。この事業を経験することによって、「稲むらの火」の原点を知っていただけたのではないのでしょうか。



11月5日の津浪祭は116回目を数え、今も安政津波を伝承していると思います。自然災害はやむをえない点もありますが、その時どうわが身を守るかと言う事を心に留めておけば、自分の命は自分で守るとことになると思います。犠牲者ゼロをめざしましょう。

南海トラフ防災対応

昨年末12月12日の新聞に標記のような見出しが載りました。

政府の中央防災会議の作業部会が南海地震巨大地震の震源域で大地震が起きた場合、域内の被災していない地域にも避難を促すことなどを柱とする報告書をまとめたということです。

報告書では、巨大地震の想定震源域のうち、①東側か西側のどちらかをマグニチュード(M)8以上の地震が襲う「半割れ」②一部でM7以上の地震が起きる「一部割れ」③断層がずれ動く「ゆっくりすべり」——の三つを前兆現象と定義。いずれかの現象が起きた場合、気象庁は最短2時間で「臨時情報」を発表し、政府もほぼ同時に防災対応を取るよう呼びかける。



揺れに襲われていない地域であっても、近い将来、地震が懸念されるとして、一部地域の

住民らを対象に、1週間程度の避難が必要とされています。また、M7級の地震が起きる「一部割れ」では、自主避難を求める。「半割れ」ケースの後に大地震が起きたのは、安政と昭和の南海地震であり、和歌山県や徳島県、高知県などの沿岸部で多くの犠牲者が出た記録がある。事前の防災対策があれば、大きな被害は防げた可能性があることから、今回、報告書で異例の対応を社会に求めたということです。

<お知らせ>

「稲むらの火の館」は新年1月5日から営業を始めます。職員一同、皆様のご来館をお待ちしています。

濱口大明神縁起を読み(その4)

濱口 擔(かわせみより)

それに私としてひしひしと胸にこたえたのは、此の大惨禍大困憊の非常時に際して、是非共身を挺して何事かをなさねばならぬと鞭撻される様な心持がしたのであった。此等は特に私に対してのみ特殊な心の衝動を与えたものであるかも知れぬが、又一般的に同様の感化のあるものでないと、誰が断言する事が出来ようか。

今一つの理由は、今度の地震が安政度のものに比べては小さかったと言う事は、種々の事実によって証拠立てていらるるが、之に伴うて起った所謂津波と云はるるものに至っては、一層比較にならぬ程の小さなものであった。成程葉山でも津波が来たと言ふ程の大波が二回打ち寄せて来たが、それは土用浪の少し大きい位のものに過ぎなかったのである。之に反して鎌倉では其の為に家は流され人命を損じたり相当被害はあったが、それは稲瀬川の川尻の低地に余りに不用意に波打際に近く建てられてあった家が害を蒙ったので、決して浪が大きかった故でなく、建て所の悪かった罪に帰すべきである。其の他の地方でも大抵似たり寄つたりの話であるが、之を彼の広表(ひろぼう)百数十町歩の広田圃の大部分を一面の海と化したり、五百に足らぬ民家の中を百二十余戸も流出したりした安政年度の大被害に比べて見れば、物の数にも足らぬ次第である。私をして言わしむれば、今回の地震に就いては安政の昔とは違ふから種々の記録や統計が遺憾なく蒐集保存せられ、従つて有益なる研究もなされる事であろうが、地震に伴うて起つて来る津波と言う事が余りに軽視せられ、従つて之に対する予防善後の対策攻究が、自ずから等閑に附せられているのではあるまいかと云う感がするのである。耐震々々と言う事のみを考えて家を建てても、土台から洗い流されると云う様な事が起つては、臍を噬むも及ばざる事になるのである。之れ私が成るべく安政年度の実状を詳かにして置いて研究の資料となすべき事が望ましいと言う所以である。(つづく)

<館長日記>

12月8日、第4回全国被災地語り部国際シンポジウムが熊本地震の被災地、熊本市で開催されました。第1回、2回と参加していた館長は今回もお誘いいただき出席しました。

①シンポジウムは目的ですが、もう1ヶ所行きたい所がありました。「小泉八雲旧居記念館」です。八雲が熊本の第5高等学校へ勤務した時に住んだ家が記念館になっています。坂本館長に説明を受け、資料もいただきました。「稲むらの火」コーナーもありました。

②熊本城は地震でたいへんな被害を受け、天守閣は先端部はきれいになっていましたが、下部は足場で見えませんでした。周囲の石垣等、全部復興するのに20年かかるということです。



③シンポジウムは、全国から150名以上が参加、台湾からもパネラーとして出席していました。熊本市長さんは、地震当時のことを十分に思い出せない事もあり、自分の中で風化しているのかな、100年後忘れてしまつて、災害が無かつた事になるのが怖いと言われました。

④南阿蘇村では幅200m高さ700mの山が崩落、長さ200mの橋も落ちていました。東海大学農学部校舎も大きな被害でした。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口 梧陵記念館/津波防災教育センター

〒643-0071住所和歌山県有田郡広川町広671

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

*休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

(世界津波の日の11月5日は開館)

年末年始(12/29～1/4)

*記念館だけの入場は無料です